

令和3年度第2回花巻市博物館協議会 会議録

1 開催日時

令和4年2月3日（木） 午後1時30分～午後2時30分

2 開催場所

花巻市博物館 講座・体験学習室

3 出席者

(1) 委員7名

佐藤由紀男委員（会長）、浅沼昭男委員、沼田弘二委員、鎌田愛子委員、
中島健次委員、平野榮一委員、大原皓二委員

(2) 事務局（博物館）5名

佐藤勝教育長、高橋信雄館長、佐藤恒副館長、小原一明管理係長、
小原伸博学芸係長

4 議 事

- (1) 令和3年度事業報告について
- (2) 令和4年度事業計画について
- (3) 東和ふるさと歴史資料館の廃止について
- (4) 石鳥谷歴史民俗資料館の今後の運営について

5 議 事 録

(1) 開会（進行：佐藤恒副館長）

[協議会成立報告（委員7名出席・3名欠席）]

(2) 挨拶

（佐藤勝教育長）

委員の皆様には、コロナウィルス感染症の拡大で大変不安な時期でございますが、御出席をいただき大変ありがとうございます。感染症の影響により、博物館も臨時休館等を余儀なくされ、変則的ながら事業を継続してまいりました。これまで経験のない事態なわけでございますけれども、こういった中で、市民のための博物館として、こういった不測の事態に対応して、新しいサービスも考えていかなければならないように思います。つまり、従来のように、資料を収集し研究した成果を、市民の方に来館して見学し

ていただだけの発想ではなくて、市民のニーズに柔軟に対応する展示方法の開発も必要ではないのかなと考えております。本日、これまで事業を進めてまいりました令和3年度事業について御報告申し上げ、併せて令和4年度事業計画についてもお示ししたいと存じます。また、休館している東和ふるさと歴史資料館の廃止、また、石鳥谷歴史民俗資料館の今後の運営についても御意見を賜りたいと存じます。いずれも、苦渋の判断でありますけれども、それをどう補完し、市民の方々へこの歴史文化をお伝えしていくかという観点も含めての御提案となります。忌憚のない御意見を賜ればと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

(3) 議事

(佐藤恒副館長)

それではこれより議事に入らせていただきます。議長は規則第9条第2項の規定によりまして、当協議会の会長であります岩手大学教育学部教授 佐藤由紀男様をお願いいたします。

(佐藤由紀男会長)

それでは、議事に入っていきたいとおもいます。御承知のようにこの会は物事を決める会ではなくて、意見を述べる会でございますので、忌憚なき御意見をよろしく願いいたします。では最初に、令和3年度の事業報告について、事務局から説明をお願いいたします。

(小原伸博学芸係長)

議事(1) 令和3年度事業報告について御説明いたします。1. 調査研究活動について、当課の学芸員がそれぞれ個別に設定したテーマに基づいて、研究活動を行っております。内容は記載のとおりでございます。続きまして、2. 資料収集活動について、記載のとおり花巻人形等の寄贈をいただいております。3. 展示活動です。期間展示について、花巻傘、矢沢駅の駅名標等、展覧会に関連した資料を紹介しました。展覧会についてです。特別展「光ミュージアム所蔵 美を競う 肉筆浮世絵の世界」と題しまして、4月24日から6月6日まで開催しました。江戸時代中期頃から明治期までの人気絵師たちが描いた、優美で濃密な一点ものの肉筆画であり、きらびやかな多色摺木版画とはまた違った、しみじみと味わい深い絵画の魅力を紹介しました。展示構成や関連事業は、記載のとおりです。テーマ展「鉄道と花巻—近代のクロスロード—」について、6月26日から8月13日まで開催しました。本来は、8月29日までの開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、8月14日から9月24日まで臨時休館しました。展示内容としましては、花巻における鉄道網の展開に焦点を当て、鉄道開発やそ

れに関わった人物、さらに当時の花巻の町の様子などを取り上げながら、交通拠点都市として発展した花巻の近代鉄道史を紹介しました。展示構成、関連事業については記載のとおりです。テーマ展「新収蔵品—あーとへのいざない—」と題しまして、9月25日から11月23日まで開催しました。近年新たに寄贈・寄託された美術工芸の作品を中心に、盛岡藩お抱え絵師や明治まで活躍した絵師の作品をはじめ、刀や刀装具、油彩画、やきものなどを紹介しました。展示構成、関連事業は記載のとおりです。共同企画展「多田等観—運命のチベット、そして花巻—」につきましては、12月11日から1月23日まで開催いたしました。チベット仏教に関する貴重な品々をはじめ、花巻での日々につわる資料を紹介し、多田等観の功績を顕彰しました。展示構成、関連事業については記載のとおりです。「～花巻から世界へ～菊池雄星投手&大谷翔平選手 花巻東高校サイン入りユニフォーム展示」につきましては、10月22日から11月14日まで、特別ブースを設置しまして開催しました。2人が花巻東高校ユニフォームへサインし撮影した写真が話題となり、そのユニフォームを多くの方に見ていただきたいとの花巻東高校の意向から紹介したものです。展示品等は記載のとおりです。なお、令和4年2月11日から開催予定であった企画展「ブドリのイーハトーブ災害ノオト—近世近代東北の災害史—」につきましては、準備をしていましたが、新型コロナウイルスの影響により県外からの資料借用が困難となったことから、延期といたしました。4. 教育普及活動です。講座の開催について、花巻の歴史や文化の知識を深め、文化の継承者として積極的に活動できるよう支援しています。博物館と小中学校との連携については、感染症対策を徹底した上で博物館の見学学習や、各校への出前事業を行っています。各校の担当教諭と連携を図りながら、各校共通で学べるものに加え、それぞれの地域特性を盛り込んだ学習メニューを作成し、児童生徒の興味や関心を高めるよう工夫しております。開催実績は書いてあるとおりです。体験学習につきましては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、体験学習を実施しました。しかし、8月14日から9月24日まで休館となり、勾玉つくりと琥珀玉つくりを中止しました。市内にある縄文時代や古代の遺跡から発掘された出土品をもとにしたアクセサリーづくり、花巻の伝統工芸の周知と継承を目的とした制作体験を開催しました。開催実績は記載のとおりです。博物館実習については、今年度は実習を募集しましたが、申込みがありませんでした。職場体験学習は、新型コロナウイルス感染症の影響により募集を行いませんでした。また、教職員との連絡会議・研修会については、博学連携の効果的な方策の探究と、市内各地域の歴史や文化の理解の促進のために、会議や研修会を実施しました。開催内容は記載のとおりです。以上で報告を終わります。

(佐藤由紀男会長)

それでは令和3年度事業報告について、御質問、御意見をお願いいたします。

(鎌田愛子委員)

花巻東高校ユニフォーム展示について、24日間のうち5,299人もの入館者があったことに驚いています。入館者数のうち、子どもは何名入館しましたか。

(小原一明管理係長)

お答えします。ユニフォームを観覧された方のうち、小中学生等の内訳は数えていなかったのですが、5,299人のうち、修学旅行で来館されてご覧になった方が567名いらっしゃいました。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。特になければ、次の議事に進みます。令和4年度事業計画について、事務局から説明をお願いいたします。

(小原伸博学芸係長)

議事(2) 令和4年度事業計画について御説明いたします。(1) 展示活動事業につきまして、初めに、テーマ展「屏風と襖」と題しまして、令和4年5月21日から6月26日まで開催したいと思います。内容としましては、博物館で所蔵している屏風や襖から、花鳥や山水、人物が描かれた様々な作品を紹介します。次に、特別展「20世紀巨匠版画展」と題しまして、7月16日から8月28日までの予定で開催いたします。シャガールやミロなど20世紀の巨匠たちによるリトグラフやポスター、情報誌の表紙絵として制作された版画の世界を紹介します。テーマ展「花巻のやきもの」につきましては、9月17日から11月20日まで開催いたします。約15,000年前に日本で誕生して以来、私たちの暮らしに欠くことのできないものとなったやきもの、花巻ゆかりの縄文土器から近代の陶磁器までを紹介し、花巻の焼き物文化をたどる展示を行いたいと思います。次に、共同企画展「ぐるっと花巻・再発見! 「山の暮らし」と題しまして、12月10日から令和5年1月30日までの予定で開催いたします。花巻は奥羽山脈と北上高地に挟まれ、総面積の半分以上を山林が占める土地であります。山を生業の場とし、山と暮らしてきた人々があり、平地に住まう人々も山からの恵みを楽しんで暮らしてきました。本展では、山を生業の場とした名もなき人々に焦点を当て、花巻での山の暮らしに迫ります。最後に、テーマ展「花巻人形」についてですが、令和5年2月18日から同年5月7日までの日程で開催したいと思っております。館が誇る570種3,500点以上にも及ぶ花巻人形。素朴でありながらも、優雅さを併せ持つ花巻人形の奥深い魅力を紹介いたします。次に、(2) 教育普及活動事業について御説明します。講座としましては、館長講座3回、学芸員講座3回の開催を予定しております。ワークショップでは、勾玉づくり、琥珀玉づくり、縄文弓矢・火起こし体験、及び花巻人形絵付け体験を予定しております。そのほか、講師依頼による各種出前講座、小学校などへの出前授業に対応いたします。以上で

説明を終わります。

(佐藤由紀男会長)

それでは、委員の皆様から御質問ですとか御意見をお願いしたいと思います。

(中島健次委員)

先ほどの教育長の御挨拶に関連することですが、博物館の運営について、より多くの入館者に来ていただくために、感染症の影響で大変でしょうけれども、柔軟な発想で人を引き付ける企画展示を行っていただきたく、意見といたします。

(沼田弘二委員)

教育普及活動について御意見を申し上げます。通常、中学校では中学2年生の生徒が職場体験学習を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ2年くらい、これを実施出来ない状況になっています。来年度もどうなるか状況が見通せないのですが、子どもたちにとってこの体験は貴重なものになりますので、積極的に受け入れていただければうれしいです。

(浅沼昭男委員)

共同企画展「山の暮らし」についてお伺いします。山といっても、いろいろな生業、暮らしがあると思いますけれども、どういう方々を取上げ、どのような展示をするのか。また、関連事業としてスタンプラリーを行うとのことですが、行う場所について具体的にお聞かせいただければと思います。

(小原伸博学芸係長)

お答えいたします。山の暮らしの内容ということで、マタギの生活の道具などを紹介する予定でございます。またそれと併せて、各地域にありますダムについての展示を検討中です。スタンプラリーについてのご質問ですが、共同企画展は、萬鉄五郎記念美術館、花巻市総合文化財センター、新渡戸記念館、高村光太郎記念館の5施設共同で開催する先人をテーマとした展示を行います。それぞれ花巻にゆかりがある先人等を顕彰する展示を行う予定であり、各施設のスタンプを集めるものとなります。

(鎌田愛子委員)

今あった御質問に付随しますが、共同企画展の関連事業にバスツアーがありますが、これは市民の方が参加されて、企画展を観るのだとおもいますが、もしできるのであれば、写真の好きな方などもいらっしゃるとおもうので、バスツアーに参加された方が撮影した写真を集めてもらってそれも一緒に展示するなど、市民が参加できる展示も

検討されてみてはいかがでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

御意見ありがとうございます。そのような展示なども検討しながら考えていきたいとおもいます。

(佐藤由紀男会長)

今の御意見に関してですが、御承知のように肖像権の問題に注意してくださいね。

(平野榮一委員)

共同企画展「山の暮らし」の展示内容について質問ですが、林業について、例えば山で伐採した木材を山麓へ、さらに町へ運ぶというような内容の展示は考えていますか。

(小原伸博学芸係長)

お答えいたします。「山の暮らし」の内容の詳細に関しては、開催まで期間があるので、そういった御質問があったことを含め、係内で検討してまいりたいと思います。

(大原皓二委員)

昨年度の特別展「光ミュージアム所蔵 美を競う 肉筆浮世絵の世界」を観させていただいて、とてもよかったとおもいました。光ミュージアムさんから借りられたとのことですが、今回予定されている特別展「20世紀の巨匠版画展」についても、業者さんを通してお借りするものか。おおよそどのくらいの予算額を見込んでいるのか教えていただければとおもいます。

(小原伸博学芸係長)

お答えいたします。「20世紀の巨匠版画展」については、企画会社の仲介で展示を行います。予算についてですが、ポスターなどの印刷等すべて含めると約600万円の予算となっております。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。それでは、次の議事に移っていこうとおもいます。東和ふるさと歴史資料館の廃止について、今までも報告、説明をいただいているところですが、方向性が決まっていくようですので、説明をよろしくお願いします。

(佐藤恒副館長)

議事(3) 東和ふるさと歴史資料館の廃止について、御説明いたします。東和ふるさ

と歴史資料館につきましては、県立東和病院の新築移転に伴いまして、旧東和町に無償譲渡された施設を展示資料館として改修して、平成9年11月3日に、東和ふるさと歴史資料館として開館いたしました。その後、建物の老朽化が著しいために、平成27年4月1日から休館しているという状況でございます。建物の構造上、耐震等の補強工事が困難でありますことから、今後の利活用が見込めないため廃止しようとするものでございます。廃止の時期につきまして、本年3月に花巻市博物館条例を一部改正し、当資料館を廃止する予定でございます。当資料館に展示しておりました収蔵品の一部は、新設された東和コミュニティーセンター内の展示室に一部展示しておりますし、その他の収蔵品につきましては、田瀬及び成島の各振興センターに移転して、保管しております。また、東和コミュニティーセンター内の展示につきましては、今後、保管しております資料を活用いたしまして、定期的に展示替えを行っていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

(佐藤由紀男会長)

それでは、今の説明に対しまして、御質問ですとか、御意見をお願いいたします。

そうしましたら私から質問でございますが、田瀬、成島の各振興センターに資料を収蔵しているということですが、この建物の中の収蔵環境、特に空調設備の状況はどのようになっていますでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

お答えいたします。田瀬、成島振興センターの施設は、以前小中学校の校舎でした。廃校後、現在は収蔵場所として活用しています。収蔵環境についてですが、現在換気扇のみの設備となっております。

(佐藤由紀男会長)

確認ですが、資料が劣化する前に博物館に移転するなどの劣化防止の対策は取ってらっしゃいますよね。

(小原伸博学芸係長)

お答えいたします。適度に空気が通るように収蔵資料を配置しておりますので、資料の急激な劣化の心配はないとおもわれます。また、会長のおっしゃるとおりの対策も想定しています。

(平野榮一委員)

東和コミュニティーセンター内の展示室の今後について、土沢神楽や倉沢人形歌舞伎等の展示を検討中とのことですが、検討だけでなく是非実現をお願いしたいです。ま

た、年1回でなくとも3年に2回程度の定期的な展示替えができないでしょうか。この博物館のテーマ展示みたいなものでいいとおもうので、東和地域のものを全部網羅したものを展示するというよりも、今回は神楽、今回はこのテーマといったような展示も考えていただければありがたいとおもっております。

(小原伸博学芸係長)

貴重な御意見ありがとうございます。検討していきたいとおもいます。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。それでは、次の議事、石鳥谷歴史民俗資料館の今後の運営について、事務局から説明をお願いいたします。

(佐藤恒副館長)

議事(4)石鳥谷歴史民俗資料館の今後の運営について、御説明いたします。資料に記載の外観図と併せてご覧いただきたいのですが、石鳥谷歴史民俗資料館は、建築年が異なる建物が二つつながっている状況でございます。南側の資料館部分は昭和56年3月に建築され、北側の収蔵庫部分は昭和59年6月に増築されました。収蔵庫部分には、南部杜氏の酒つくりの歴史を物語る酒造用具が収められ、そのうち1,788点は国の重要有形民俗文化財に指定されています。この二つの建物のうち、資料館部分のほうが、現在の新耐震基準を満たしていないということから、令和2年10月策定の花巻市公共施設マネジメント計画において、利用者の安全確保の点から、有料化施設としての運営を見直して、収蔵庫等としての活用を図ることとし、資料館部分に展示している収蔵資料については、一部をほかの施設に移して展示することを検討しております。移転先の施設につきましては現時点で未定でございます。少なくとも石鳥谷町内にはなるかと思いますが、場所については地元の方々の意見もうかがいながら今後検討してまいります。以上で説明を終わります。

(佐藤由紀男会長)

それでは、この議題につきまして、御質問・御意見をお願いいたします。

(浅沼昭男委員)

石鳥谷歴史民俗資料館の国指定重要有形民俗文化財は収蔵庫に保管されているとのことですが、この資料が分散されることはないのでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

お答えいたします。重要有形民俗文化財となっている酒造用具はこれまでどおり収蔵

庫で保管し、分散はしません。

(中島健次委員)

この石鳥谷歴史民俗資料館のことで肝腎なのは、収蔵資料をどこに移すかということだろうとおもいます。移転先が市民にとって気軽に見学しやすい場所、例えば、石鳥谷総合支所の庁舎内にかなり空きスペースがあるようなので、有効活用することも考えていただければとおもいます。

(佐藤勝教育長)

御意見ありがとうございます。やはり石鳥谷地域のもので、できるだけ市民の方が触れ合えるところで、無料で見学できるような、石鳥谷地域の公共施設等を使用したいと考えております。これまで検討した経過でございますが、資料館の近隣にある生涯学習会館、あるいは今委員がおっしゃったような石鳥谷総合支所庁舎の中の有効スペースの利用を検討しております。

(大原皓二委員)

道の駅いしどりやの施設に関連しての質問ですが、今後、石鳥谷歴史民俗資料館の収蔵資料が道の駅内の他施設へ展示されることはありますか。

(小原伸博学芸係長)

お答えします。南部杜氏伝承館への展示について関係機関と検討をしてきましたが、残念ながら今回は展示しないことになりました。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

そうしましたら私から質問いたします。国指定重要有形民俗文化財が収蔵されていて、その隣の展示施設が、耐震上問題があるということになりますと、これは利用者の安全確保だけではなくて、指定文化財の管理の点からみても、これは開館していくわけにはいかないというふうに考えられるので、これは適切な判断であると私は考えます。また、問題になってきますのは、委員の皆さんから御意見が出ていますように、資料館のほうに置いてある資料も、全国的に有名な資料もございますので、できるだけ見学できるような何らかの方法を考えていただければとおもいます。文化財を扱う公的な施設は博物館や総合文化財センターもあるわけですが、今後、何年度を目安に資料の移転を考えていらっしゃるのか、その辺も教えていただけますでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

資料館部分で展示している資料の一部は、博物館等での公開も考えているところがございます。

(佐藤恒副館長)

資料の移転につきましては、なるべく早く、できれば来年度中にも行いたいという考えではありますが、移転先が決まっていない状況です。

(佐藤由紀男会長)

わかりました。耐震に問題があるということがわかったわけですので、できるだけ速やかに対応するのがよろしいかと思えます。

他に御意見・御質問はございますか。よろしいでしょうか。それでは、以上をもちまして、本日の議事は終了いたしました。

(4) その他

(佐藤恒副館長)

佐藤会長ありがとうございました。それでは、次第の4 その他ということになりますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。なければ、閉会のほうに移らせていただきます。花巻市博物館長 高橋信雄より、閉会の御挨拶をさせていただきます。

(5) 閉会の挨拶

(高橋信雄館長)

本日、御意見等をいただき、ありがとうございました。冒頭に、佐藤教育長から、博物館の運営について新しい方向を目指していきたいというお話がありましたけれども、このことと併せて、この博物館が開設された当初から目指していた基本的なこと、つまり、市民の皆さんにとって誰でも利用できて、楽しめるような開かれた博物館を目指していきたいと思えます。コロナ禍の中ですけれども、むしろ、市民の期待に応え、親しんでいただけるような新しい方法も考えていけるような気がしております。委員の皆様の御意見を十分に生かしながら、新しい開かれた博物館を目指していきたいと思えますので、今後とも御指導のほどよろしく願いいたします。以上をもって、閉会の御挨拶といたします。

(以上)